

## 第12回日米構造設計協議会

12th U.S.-Japan Workshop on Improvement of Structural Design and Construction Practices

September 10 - 12, 2007 Kauai, Hawaii

JSCA国際委員会/日米構造設計協議会部会主査 川村 満

第12回日米構造設計協議会が、2007年9月10日から12日の日程で、Sheraton Kauai Resort (ハワイカウアイ島) にて開催された。

この会議は米側ATC (Applied Technology Council) と日側JSCA (社日本建築構造技術者協会) により企画運営され、1984年から開催されているもので、これまでハワイ(4回)、サンフランシスコ、東京、サンディエゴ、ヴィクトリア(2回)、神戸(2回)などにおいて開催されており、前回2005年10月に開催されたものを受け、今回はその12回目である。各回会議の運営に関しては、原則ホスト国を交互に担当することになっており、今回は米側の担当であった。

JSCAにおいては、国際委員会の下に日米構造設計協議会部会が設けられており、この部会を中心に準備運営が図られている。

今回の参加者は日側21名、米側16名で、日米双方とも協議会開始時からのメンバーから、今回新たに参加したメンバーまで、産学官の参加者が活発に議論を交わした。論文発表は4セッション、日側11、米側15、計36件で、全体会議の議長は前回と同じく米側ATCからChristopher Rojahn、日側JSCAから川村満のCo-chairとなった。

行われたセッションは以下の通りである

### 1日目

I: Performance Based Design of High-Rise Building

II: Sustainability of Structures and Systems

### 2日目

III: Functionality of Structures in Catastrophic Events

### 3日目

IV: Coordination of Catastrophic Event Investigations and Improved Mitigation Activities

V: Closing Session

今回米側の提案により、討論の時間を増やし理解を深め、今後への提言、行動方針などを取りまとめる目的で、討議を主体とした会議構成となった。具体的には、上記各セッションにおいて、5人から8人の論文発表に続いて、全体Discussion (30分、グループ討議の方向性と討議項目の検討)、4グループに分かれたBreakout Sessions (1時間15分)、

再度全体会議にて各グループでの討議内容の報告、という時間割であった。

更にClosing Sessionでは今回の討議全体のまとめを踏まえて、今後の本会議の方向性についての討議がなされた。

グループ討議での話題は主に以下のようなものであった。

セッション I 日本側の基準法改正に絡みPeer Reviewに関連した議論

高層建築物の設計上の取扱と設計用地震動

セッション II 持続性を有する都市、レトロフィット

セッション III 非構造部材を含めた総合的耐震性能、その設計責任、試験方法

セッション III 災害時の記録等の入手方法、資料の閲覧・共有・保管

構造技術者の役割と能力

今回の特徴として、討論時間を多くしたことから、開始前には大変な会議になるのではと危惧されていたが、実際は活発な意見が交わされ、出席者各々が参加の意義を確かめられ、有意義な会議になったと感じている。

会議期間中、1日目はATC主催の歓迎パーティが開催され、2日目はJSCA主催の歓迎パーティが開催された。また今回初めて2日目午後懇親の目的で日米混合チームによるゴルフ大会も催された。その甲斐も有ってか、会議は順調に進行し、次回は2009年、ハワイ(未確定、今後検討)にて開催を予定して閉幕となった。

次回は更に各方面から中堅・若手技術者の参加をお願いしたいと考えている。



日米構造設計協議会の参加メンバー